

何やあ、そんなのあかへんわあ

しかし、僕は、逃げながらも、その四人の中の一人だけに目を向けた。その子も気がついたみたいだった。しかし、僕は自分からは、それ以上、積極的に行動は取れなかった。

その子は美人双子の一人。

小学校三年から一緒のクラスだ。

小学校三年と四年の二年間は、

双子の二人とも僕と同じクラスだったが、五年と六年では、双子の片方だけが、

僕と同じクラスになった。

四年生の冬にお別れ会をやった時、そのお別れ会でするドラマの練習で順番にメンバーの家へ行き練習し、夜は夕飯を呼ばれた仲だった。

五年になっても、同じクラスになり、僕はうれしかったが、その気持ちをその子に表したことはなかった。

一番、クラスで親しくなっていたが、そのまま、小学校卒業式を向かえ、その子とも、それっきりになった。

その双子はミッション系の女子中学校へ入学し、僕も、ミッション系の男子中学校へ入学し、別れ別れになってしまった。